

資料 2

令和 4 年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 学校教育室

説明者 職名 学校教育企画監 氏名 度會 友哉

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
グローバル人材の育成	「いわての地域国際化人材育成事業」として、英語ワークショップイーハトーブの森（イングリッシュワークショップ）を実施した。小学校5年生から高校3年生までを対象とし、グローバル人材として必要な語学力の向上や国際理解を深め、国際的な視点を広げる機会となった。
高校の魅力化	高校魅力化プロデューサーが高校を訪問し、「高校魅力化」に係る取組を支援することで、地域等関係機関との協働体制であるコンソーシアム等の設置が39校で進み、また、生徒の探究的な学びが深まる等、全県立高校において特色・魅力ある学校づくりが進んだ。
いわての復興教育の推進	「いわての復興教育」プログラムに基づき、学校・家庭・地域が連携・協働し、児童生徒の発達段階や各学校・地域の実情に応じた取組に支援できた。 「いわての復興教育スクール〈沿岸〉」（19校）と「いわての復興教育スクール〈内陸〉」（16校）を推進校として指定した。 「いわての復興教育」プログラム第3版及び副読本を基にした「絵本」を昨年度に引き続き作成し、「いわての復興教育」を未就学児にも拡充するとともに、就学前教育及び生涯学習との連携を強化し一層の充実を図った。
こころのサポートの充実	県全域にスクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）を適正に配置し、課題を抱えた児童生徒への直接的支援や支援のための環境を調整することができた。また、「心とからだの健康観察」の実施と結果の活用により、トラウマ反応や日常のストレス反応が高い「要サポート」の児童生徒を把握し、早期支援に繋げることができた。教員研修は、今年度から中高において「こころのサポート校内研修会」を2年に1回実施することとし、SCを講師とした教員研修により心のサポートに係る教員の資質向上を図った。今後も児童生徒に対する重層的な支援のため、SC、SSWと連携しながら心のサポートを充実させていく。
いじめ問題対策	県独自調査として、昨年度中に認知した「いじめの現在の状況」の追跡調査を今年度実施し、その結果を踏まえたいじめ防止等の取組の充実を働きかけることができた。また、今年度10月から、いじめ問題等の初期対応を適切に行うため、「いじめ対応・不登校支援等アドバイザー」を県教育委員会に配置し、学校支援に繋げることができた。 今後もいじめ認知の追跡調査を継続実施するとともに、いじめの初期対応については、「いじめ対応・不登校支援等アドバイザー」等と連携しながら、組織的な対応を支援していく。
県立高校入試の改善	最近の生徒の活動の多様化、部活動参加の任意化等に対応した入試改善について、県立高校入試改善検討委員会からの提言を受け、本年度中に令和7年度以降の県立高校入試制度について公表予定（12月に意見募集（パブリック・コメント）を実施）。適宜、中学校対象の説明会（オンライン実施も含む）を実施し、志願予定者及び保護者への周知を行っていく予定。
就学前教育の充実	今年度設置の「いわて幼児教育センター」職員による各市町村への説明訪問、各就学前教育施設への訪問支援等により、県内就学前教育の現状を把握することができた。 いわて幼児教育センターの研修、訪問支援、調査研究・情報収集を活用し、就学前教育の質の向上、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に取り組んだ。 今後も、いわて幼児教育センターで実施する研修の一層の充実を図るとともに、各市町村における幼児教育アドバイザーの配置の促進を図る。

2 重点事業の状況（2～3）

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況等	成果・課題
いわての地域国際化人材育成事業	イーハトーブの森～英語で未来を拓くワークショップ～ ・小5～高3対象 ・目標とする英語力にあわせた2コース	5/21、6/25の2回	児童生徒各回40名程度	グローバルな視点を持ち、英語を使って意欲的に他者と関わろうとする意欲や態度を育成できた。

いわて高 校魅力化・ふる さと創生 推進事業	①令和3年度までの小規模実 校や専門高校を中心に、 施している「高校の魅力 化」に係る取組を全県立 高校において推進する。 ②地域等の関係機関と 連携・協働した探究的な 学びの推進。地元小・中 学等との連携の強化、取 組の発信。コンソーシア ムの設置。	通年	全県立高等学 校 63 校	①高校魅力化プロデューサーが 各校の状況に応じ、地域 等機関との協働体制の構 築が進められ、生徒が地 域の人々と協働し、全 県立高校において特色・ 魅力ある学校づくりが 進んだ。 ②今年度は39校でコン ソシアム等が設置され、 地域との連携を進め、 他校の学校についても設 置の準備を進めている。
いわての 復興教育 推進事業、学校 安全支援事業	・いわての復興教育スクール ・学校防災アドバイザー派 遣事業	2/10 まで	延べ小 17、中 14、県立 22 校	各学校の実情・課題に 応じて、多様な地域資 源を活用する通しとし て、地域や関係機関等 と関わり、「いわての復 興教育」を推進するこ とができた。
	・「震災の教訓を未来に語 り継ぐ」期間の設定	3月まで 随時	全公立学校	
	・児童生徒実践発表会	1/23	児童生徒、教職員、 保護者、一般等	
	・岩手県防災教育研修会	6/7	管理職・主任 層、市町村防災 担当者等 90 名	
SC、SSW の配置	学校、教育事務所等に配 置し、重層的な教育相談 体制を充実させる。	通年	全校種の児童 生徒	すべての学校に対応で きる体制を整え、児童 生徒の相談体制の充 実を図った。
心とからだ の健康 観察	要サポート児童生徒を把 握し、早期の支援につな げる。	8月～9 月	全校種の児童 生徒	「心のサポート授業」「 アンケート」と、「要サ ポートの児童生徒との 面談」の、3つの柱で 進めることができた。
こころの サポート に係る教 員研修	SCを講師として、こ ころのサポートに係る 教員対象の校内研修会 を実施。	通年	全校種の教員	中高において「こ ころのサポート校内 研修会」を2年に1回 実施することとし、 SCを講師とした教 員研修により心のサ ポートに係る教員の 資質向上を図ることが できた。
いじめ問 題に係る 教員研修	・いじめ特別研修（主任 層、担任層）の実施	5月	全校種の教員	各研修を予定通り 実施し、いじめの適 切な対処に繋がる取 組を推進できた。
	・いじめ問題に係る事務 所研修	5月～11月		
	・学校等研修支援訪問	6月～12月		
いじめ問 題解決支 援チーム 派遣	解決困難ないじめ事 案に対する訪問支援	通年	学校及び市町 村教育委員会	SCやいじめ対応・ 不登校支援等アドバ イザーと連携を図り、 支援チームとして、 複数回支援にあた ることができた。
小・中 学課程 協議会 及び各 種研修 会の 実施	学習指導要領に対応し、 その趣旨、内容及び学 習評価の進め方等につ いて県内教員の理解を 深める	通年	公立小・中・義 務教育学校教 員及び市町村 教育委員会 関係者	学習指導要領を踏 まえた学習評価に係 る説明及び演習をと おし、各教科等の学 習評価の進め方につ いて理解を深めるこ とができた。 地区別の教育課程協 議会については、新 型コロナウイルス感 染症や豪雨被害の影 響により、6地区中 3地区が参集開催す ることができず、代 替措置を講じた。
各高等学 校の教育 課程対 する指 導・助 言の実 施	令和4年度入学者から 本格実施されている新 学習指導要領による各 高等学校の教育課程 について、必要に応 じて指導・助言を行 い、新学習指導要領 における指導と評価 について適切な実施 を推進。	通年	各県立高校	各高校の教育課程、 指導と評価等につ いて、指導・助言等 により、適切な実施 を推進した。
「遠隔教 育ネット ワーク 構築事 業」の 推進	配信拠点から受信校 5校への授業配信を行 い、遠隔授業の継続 的な実施に向けて、 事業を推進。	通年	配信センタ ー、受信校	年間を通して、数 学、物理及び化学の 授業を配信した。よ り生徒のニーズに応 じた科目が配信でき るように検討を進め ていく。

いわて 幼児教育 センター 推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育施設職員を対象にした研修と幼小接続研修の充実 ・幼児教育専門員による訪問支援と市町村幼児教育アドバイザーの配置促進 ・県指定研究事業 	通年	幼稚園、認定保 護施設、小 学、関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・現在作成中の「いわて就学前教育振興プログラム」の実施を見据えながら、新たな研修や既存の研修内容の見直しを行っている。 ・幼児教育専門員による訪問支援は、園のニーズに対応しているため、大変好評である。 ・市町村の就学前教育の推進体制構築を目的とし、県内の先進事例となる取組を行っている。
-----------------------------	--	----	----------------------------	---

令和5年度（ 学校教育室 ） 事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
グローバル人材の育成	いわての地域国際化人材育成事業	イーハトーブの森～英語で未来を拓くオンラインワークショップ～ ・小5～高3対象 ・目標とする英語力に合わせた2コース	5月～9月 各コース1回	児童生徒各40名程度
高校の特色化・魅力化	いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業	令和4年度より全県立高校に展開している「高校魅力化」の取組を充実させ、高校と地元市町村等の協働体制の強化を図りながら、引き続き未来の担い手を育成し、地域活性化の促進につなげる。	R5.4月～R6.3月	全県立高等学校63校
「いわての復興教育」の推進	いわての復興教育推進事業	①いわての復興教育スクール〈沿岸〉	①②③④⑤⑥ R5年度	①②③小・中・義務教育学校・県立学校における推進校 ⑤小・中・義務教育学校 ④⑥⑦⑧全公立学校
		②交流学習スクール		
		③震災学習列車活用スクール		
		④復興教育副読本の効果的な活用の推進		
		⑤復興教育研修会の実施		
		⑥学校防災アドバイザー派遣事業		
		⑦児童生徒実践発表会	R6.2月	
		⑧「震災の教訓を未来に語り継ぐ期間」	主にR6.2月～3月	
	学校安全総合支援事業	①いわての復興教育スクール〈内陸〉	①② R5年度	①小・中・県立学校における推進校 ②全公立学校 ③全公立学校、市町村教委、市町村防災担当者
		②学校防災アドバイザー派遣事業		
		③県防災教育研修会	R5年6月	
教育相談体制の充実	スクールカウンセラー等配置事業	スクールカウンセラーの適正配置を行い教育相談体制の一層の充実を図る。	2023.4月～2024.3月	幼小中高の幼児児童生徒
	スクールソーシャルワーカー配置事業	各教育事務所にスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒が置かれている環境の改善に関する支援を強化する。	2023.4月～2024.3月	小・中・義務教育学校の児童生徒
	スクールソーシャルワーカーの派遣	県立学校へスクールソーシャルワーカーを派遣し、児童生徒の環境の改善に関する支援を行う。	2023.4月～2024.3月	県立学校の児童生徒
	心とからだの健康観察	児童生徒一人一人のトラウマ反応の経年変化がわかる資料を提供する。	2023.8月～9月	県内全公立学校の児童生徒
いじめ問題対策	教職員研修	総合教育センターにおいて、いじめ防止等に関する教職員研修を全校種、全校悉皆（6年）として実施する。（管理職研修、教職員研修） ※R5は5年目	2023.4月～2024.3月	県内全公立学校の教員
	「いじめ問題解決支援チーム」の派遣	各学校等の解決困難ないじめ事案に、専門的な知見からの助言等を行い、重大事態に至ることを防ぐとともに、いじめ問題への組織的対応力の向上を支援する。	2023.4月～2024.3月	県内全公立学校・市町村教育委員会

学習指導要領の趣旨及び内容の理解促進	教育課程協議会、授業力アップ事業、シユアッブ事、各種研修等	学習指導要領を踏まえた説明・協議等における、学習評価に係る授業の提案等について、各教科の一体化を図ったカリキュラム編成や、教員の指導力向上に向けた教員研修を充実させるとともに、互いの人権を重視した研究（指定校）を推進する。	R5.4月～ R6.3月	県内小・中・義務教育学校教職員、関係者等
道徳教育及び人権教育の充実	道徳教育研究推進事業 人権教育研究推進事業	多様な教育活動と関連を円滑に実施し、教員の指導力向上に向けた教員研修を充実させるとともに、互いの人権を重視した研究（指定校）を推進する。	R5.4月～ R6.3月	県内小・中・義務教育学校教職員、関係者等
高等学校学習指導要領	高等学校新学習指導要領の円滑な実施に向けた取組	各高等学校の教育課程について、必要に応じて指導・助言を行い、新学習指導要領における指導と評価について適切な実施を推進。	通年	公立高校教員
遠隔教育	遠隔教育ネットワーク構築事業	配信拠点から受信校に対して、生徒のニーズに応じた質の高い授業を遠隔に実施し、小規模校の教育課程の充実を推進。	通年	配信拠点、受信校で授業を受信する生徒
進学支援	高校における探究的な学びのSTEAMの視点からの深化	対象校における探究的な学びについて、地域社会の課題を題材としながら、STEAMの視点からの深化により、生徒の進路実現につながる取組を実施。	通年	対象校となった高校、生徒
県立高校入試	令和7年度以降の県立高校入試制度の周知	令和7年度以降の県立高校入試制度が円滑に実施できるように、適宜、説明会等を実施し、周知。	令和5年5月、8月、10月	中学校教員、県立高校への志願を予定している生徒
	県立高校入試における県外からの志願者受入れ	県立高校入試において、県内生徒の学ぶ機会を保障し、県外からの志願者を積極的に受け入れるための取組を実施。	令和5年8月～ 令和6年3月	県外受入れを実施する高校、当該校に志願する県外生徒
幼児教育の充実	いわて幼児教育センター運営事業	「いわて就学前教育振興プログラム」に基づき、いわて幼児教育センターを核とし、就学前教育の質の向上と幼児教育と小学校教育との円滑な接続を推進する。	R5.4月～ R6.3月	幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、関係機関等

資料 3

令和4年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 岩手県教育委員会事務局保健体育課

説明者 職名 総括課長 氏名 菊池 勝彦

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
健やかな体の育成	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 60プラスプロジェクトを推進するため、各学校への周知や新チャレンジカードの配付を行い、事業の趣旨や具体的取組内容などの理解浸透が図られたことにより、各学校の実情に応じた取組が行われていること。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 更なる周知の徹底や効果的な実践についての情報交換が必要。
学びの基盤づくり (安心して学べる環境の整備)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「スクールガードリーダー研修会」実施により、スクールガードリーダーの資質向上と各地域の取組について情報交換を行うことができた。 (1回目：参集、2回目：各地域の実践報告に基づいた資料の配布) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域ぐるみでの効果的な取組とボランティア人材の確保に向けた情報発信。

2 重点事業の状況（2～3）

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況等	成果・課題
①60プラスプロジェクト	・生涯にわたりスポーツに親しむことを目指し、運動やスポーツとの多様な関わり方を学ぶためのオリパラ教育の推進	通年	小・中学校 義務教育学校 高等学校 特別支援学校	<p>【成果】 オリンピック・パラリンピック教育の普及推進に向けた教員への啓発</p> <p>【課題】 各校における持続可能なオリンピック・パラリンピック教育の実施</p>
②中学生スポーツ・文化活動に係る研究	・望ましい部活動等の在り方に基づく取組に向け、提言の周知と共通理解の促進	通年	・セミナーの実施 (1回) 300人	<p>【成果】 中学生を支える関係機関における望ましい活動についての検討</p> <p>【課題】 「生徒本位の有意義な活動の在り方」についての周知</p>
③がん教育総合支援事業	・体育、保健体育科を中心とした教育活動全体で取り組むがん教育の推進	7～2月	小・中学校 義務教育学校 高等学校 特別支援学校	<p>【成果】 研修会による「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」の具体的な活用についての周知</p> <p>【課題】 外部講師と効果的に連携したがん教育の充実</p>

令和5年度保健体育課事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
児童生徒の健康の保持・増進に向けた対策の充実	①60プラスプロジェクト	・「よりよい運動習慣形成」、「望ましい食習慣の形成」、「規則正しい生活習慣形成」の改善等の取組を一体的に推進	・通年	・全ての学校 (私立学校を含む)
	②学校保健研修会	・健康教育の充実のための学校保健推進者の資質向上を目的とした研修会を実施	・10月	・各校種学校保健担当者等
	③がん教育総合支援事業	・外部講師と連携を図り、マニュアルを効果的に活用したがん教育の充実	・通年	・小学校・中学校 義務教育学校・高等学校 特別支援学校
	④食育推進等研修会	・学校全体で取り組む食育の推進を目的とした研修会を実施	・10月	・各校種食育担当者等
適切な部活動体制の推進	⑤部活動連絡会等支援事業	・教職員、保護者、外部指導者等の指導方針の共通理解を図るための「部活動連絡会」開催の周知	・5～2月	・中学校
	⑥運動部活動指導者研修会	・中学校及び高等学校の運動部活動担当者等の指導力向上を図ることを目的として研修会を実施	・通年	・中学校・高等学校
	⑦部活動指導員配置事業	・市町村立中学校の部活動指導員配置に係る経費を負担するとともに県立学校の部活動指導員配置及び指導員に対する研修を実施	・通年	・市町村・高等学校
安心して学べる環境の整備	⑧学校安全担当者研修会	・学校安全の中核となる教職員等の研修の充実を図り、学校安全に取り組む組織体制の構築を図るために実施	・6月	・幼稚園・小学校 中学校・高等学校 特別支援学校
	⑨地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業連絡協議会（SGL研修会）	・スクールガードリーダーの資質向上とスクールガードリーダーによる地域の取組体制、学校安全体制の向上を目的として実施	・5、10月	・スクールガードリーダー 各市町村教育委員会の 学校安全担当
	⑩地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業	・各市町村において、地域との連携を重視し、地域のボランティアを活用するなど地域社会全体で学校安全に取り組む体制を整備し、学校の安全管理に関する取組を推進	・通年	・各市町村

資料 4

令和 4 年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 生涯学習推進センター

説明者 所 長 外 館 邦 博

1 総括的な成果と課題

項 目	成 果 と 課 題
領域(1) 学習情報提供・ 学習相談	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページ「まなびネットいわて」の情報内容の充実と最新情報の提供に努めた。特にも、実施研修会に係る専用ページを作成し、研修講座の一部をオンライン配信することにより、利用しやすい環境づくりに努めた。なお、本年度ホームページのシステムを一新し、情報の登録・検索機能の充実等の改良作業を進めている。 ※総アクセス数(R3:165,721件)⇒(R4【11月末現在】:54,169件) ▽新システムの移行に伴い、アクセス数のカウント方法が変更となったため、指標としている総アクセス数（自動検索等を含む）が一部カウントできない状況となっており、その都度修正を図っている。
領域(2) 調査・研究の推 進	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT活用の実態（市町村担当部局等）を踏まえ、特徴的な取組みや課題を明らかにし、「社会教育におけるICT活用の在り方」の提案を行うこととしている。 ○震災後の地域復興・地域創造に焦点をおいて、「地域づくりにおける公民館等の役割と課題」について明らかにすることとしている。 ▽2月の県生涯学習推進研究発表会（参集及びオンラインでのハイブリッド型）で成果を発表するとともに、関係者及び団体等の活動に資するものとするため、提案内容について引き続き周知・啓発に努める。
領域(3) 指導者の養成・ 研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対応として、事業をオンラインや参集を組み合わせたハイブリッド型で行うことにより、予定通り事業を実施するとともに、参加者数を増加させることができた。また、学校教育室や教育事務所等の要望を受けて、当センター施設で職員が支援を行いながらオンライン研修等を実施するなど、ICT活用のセンター的な役割を担うことができた。 ○研修会当日及び事後アンケート調査の一部をオンライン上で実施し、記入者及び集計者の負担軽減と経費削減を図った。 ▽研修会への市町村担当者等の参加をさらに促すとともに、有志指導者等の参加申し込み方法の効率化（オンライン活用）を図っていきたい。

2 重点事業の状況（2～3） [領域(3)について]

事業名	趣 旨・内 容	期日・期間	参加状況等	成果・課題
○人づくり・地域づくり関係職員等研修講座	・社会教育の推進及び人づくり・地域づくりに携わる地区センター・公民館職員(他部局職員も含む)等の資質向上を図る研修会	盛岡 8/19 中部 7/1 県南 10/12 沿南 11/29 宮古 7/20 県北 11/10	盛岡 19名 中部 12名 県南 10名 沿南 16名 宮古 7名 県北 7名 (計 71名)	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい者の生涯学習推進・家庭教育等の講座において、福祉関係者の参加や運営の協力を得ることができた。 ○各教育事務所管内の課題感に応じた内容で企画・実施することができた。 ▽内容の充実度と比して参加者が伸びなかった講座があった。日程や参加者募集方法等の工夫を行いたい。
○子育て・家庭教育相談担当者研修会	・子育て支援・家庭教育支援にあたる電話相談等職員及び保護者支援にあたる子育て支援人材のスキルアップを図る研修会	第1回 9/30 第2回 12/5	第1回 30名 第2回 155名 (計 185名)	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回研修会は演習を中心に行い、受講者の肯定的評価が100%と高評価であった。 ○第2回研修会をオンラインでも参加できるハイブリッド型で実施したことにより、学校や福祉部局からも多数の参加を得た。さらに、研修内容のオンデマンド配信を行ったことにより、復習や職場内での共有に有効であった。(受講者の肯定的評価100%)
○地域安全防災研修会	・市町村関係職員・地域づくり団体職員・学校関係者が「いわての復興教育」や地域における防災のあり方及び避難・避難所運営の留意点等を学ぶ研修会	9/16	27名	<ul style="list-style-type: none"> ○演習を中心とする研修内容であり、受講者の肯定的評価が100%と高評価であった。 ○学校と地域が一体となって復興・防災教育を推進することの重要性を確認できた。

令和5年度 生涯学習推進センター 事業計画概要

区分	研修・講座名	内 容	期日等 (仮：調整中)	主な対象者	定員
主に市町村・施設・関係職員を対象	ICTスキルアップ研修講座	①オンライン会議・研修の実施(参加)方法や著作権について等、ICT活用による魅力的かつ効果的な事業実施に関する研修 ②オフィスソフトの使い方等に関する研修(初級・中級) ③魅力的なチラシ・広報紙の作成等に関する研修	①5月～7月(3～4回) ②6月・10月 ③6月・10月	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員	各日10～30
	新任生涯学習関係職員研修講座	生涯学習・社会教育の推進に関する基本的事項及び職務に関する研修	5/12(金)	県・市町村生涯学習・社会教育関係新任職員	90
	社会教育指導員・地域づくり関係職員等研修講座	社会教育指導員・地域づくり関係職員等としての必要な専門的事項に関する研修	5/23(火)	社会教育指導員、センター職員、地域づくり関係者	40
	家庭教育・子育て支援担当者研修会	家庭教育支援・子育て支援にあたる地域人材の活用や連携の充実等を図る市町村担当者のための研修	6/2(金)	市町村家庭教育・子育て支援担当職員	35
	コミュニケーションスキルアップ研修講座	生涯学習関係職員等に不可欠な実践的対人スキルの向上を図る研修	8/8(火)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員、学校関係者	50
	学校と地域の連携・協働研修会	学校・地域関係者を対象に、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)や地域学校協働活動(教育振興運動等)の事業理解を促し、学校と地域の連携の充実を図る研修	8/10(木)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員、学校関係者、地域学校協働活動推進員等	100
	センター・公民館・主管課職員等セミナー	生涯学習・社会教育及び地域づくりを担う施設職員・担当部局における施策推進に関する研修	9/21(木)	センター、公民館、市町村生涯学習・社会教育関係職員	35
	地域安全防災研修会	地域防災訓練に関する研修	9/15(金)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員、地域づくり団体・NPO関係者、学校関係者等	40
	事業プログラム企画運営研修講座	事業プログラム企画運営に関する研修	10/18(水)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員	50
	人づくり・地域づくり関係職員等研修講座	地域づくりを担う地区センター・公民館職員等のスキルアップを図る研修	中央研修 11/30(木) 移動研修 各教育事務所管内の数カ所で開催	センター・公民館職員、市町村生涯学習・社会教育関係職員、他部局職員等	中央研修 50 移動研修 各30
子育て・家庭教育相談担当者研修会	子育て支援・家庭教育支援にあたる電話相談等職員及び保護者支援にあたる子育て支援人材のスキルアップを図る研修	①9月予定 ②11/28(火)	県・市町村電話相談担当者、子育て支援関係者、岩手県子育てサポーター	①100 ②30	
ボランティア活動者・有志指導者を対象	放課後子ども総合プラン指導者合同研修会	「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の指導者等の情報共有や連携の促進、資質の向上に関する研修	①6/15(木) ②9/1(金)	市町村事業担当者、放課後子ども教室指導員、放課後児童支援員	①50 ②100
	読書ボランティア研修会	読書ボランティアの資質向上と読書活動の推進を図るネットワークの形成に関する研修	6/6(火)	読書ボランティア、読書推進関係者、市町村読書推進担当職員	100
	家庭教育・子育て支援活動交流研修会	家庭教育・子育て支援関係者の資質向上とネットワーク形成に関する研修	7/12(水)	岩手県子育てサポーター、子育て支援関係者、市町村家庭教育・子育て支援担当職員	45
	地域学校協働活動推進員(コーディネーター)研修会	学校の地域連携の推進と地域学校協働活動を推進するコーディネーター等の資質向上に関する研修	10/31(火)	地域学校協働活動推進員、市町村事業担当職員、学校関係者	45
要請研修	随時研修	生涯学習・社会教育に関係する団体が、当センターの職員、施設・設備を活用して随時実施する研修	通年	対象を特定せず、市町村等の要請に応じて行う	—
	出前研修(講師派遣)	生涯学習・社会教育に関する事項及び教育振興運動の推進に関する事項等について、市町村や関係機関等の要請により職員を派遣して実施する研修	通年	—	—
資格認定研修	社会教育主事講習(Ⅱ)	社会教育法の規定に基づき、社会教育に関する専門的知識、技能の習得により、社会教育主事(社会教育士)となりうる資格を付与するための講習	1月～2月	社会教育主事講習等規定に係る受講資格を満たす者(市町村職員・学校教員・団体職員等)	30
	放課後児童支援員認定資格研修	放課後児童支援員として必要な基本的生活習慣の習得の支援、自立に向けた支援、家庭と連携した生活支援等に必要知識・技能を習得するための研修	県内4会場(各会場：2日間×2回)計16日	放課後児童支援員	各50～100
	キャリア教育支援事業 高等学校卒業程度認定試験	文部科学省の依頼を受け、様々な理由で高等学校を卒業できなかった者等の学習成果を適切に評価し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるかどうかを認定するための試験	11/4(土)～5(日)	県民	—
その他	岩手県生涯学習推進研究発表会～岩手の人づくり・つながりづくり・地域づくりフォーラム2023～	本県生涯学習・社会教育の推進に係る提案として、調査研究事業の成果等を発表	2/1(木)～2/2(金)	県・市町村生涯学習・社会教育関係職員、県民	100
	センター合同一般公開	「いわて教育の日」の関連事業として、総合教育センターと合同で施設設備と職員を活用した学習及び体験の機会を提供するとともに、当センターの業務について広く県民に周知する。	11/3(祝・金)	県民(小学生中心)	—

※講師の都合等により、期日・内容等が変更となる場合があります。

資料 5

令和4年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 岩手県立図書館

説明者 職名 館長 氏名 藤岡 宏章

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
(1) 図書館資料の収集・整理・保存・活用 (2) 図書館サービスの充実 (3) 市町村立図書館等への支援と連携の推進	<p>成果</p> <p>(1) 限られた予算を図書館資料収集方針及び選定基準に沿った収集に充てるとともに、各種事業や広報等を通じて利用の促進に努めた。 【R3 来館者数259,358人（都道府県立第19位、東北第3位）】</p> <p>(2) レファレンスにより利用者の多様な調べものを支援したほか、コロナ禍の厳しい環境下、工夫しながら読み聞かせ等を実施した。 【R3 レファレンス件数17,316件（都道府県立第17位、東北第4位）】</p> <p>(3) 市町村立図書館等を対象に研修（5研修6回）を実施し、職員の知識や技能の向上を支援した。 また、紫波町図書館と連携し、郷土資料講座を開催するとともに、当館所蔵の関連資料を紹介した。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者数がコロナ禍の影響で平時の8割程度にとどまっていることから、利用者の期待に応えられる資料や企画展示の充実と非来館型サービスの提供に努める必要がある。 ・少子化、超高齢社会等の今日的課題に対応するため、指定管理者と目標を共有しながら、地域を支える情報拠点化や学校との連携を推進するなど、図書館機能の更なる充実を図る必要がある。

2 重点事業の状況（2～3）

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況等	成果・課題
県民の読書活動促進事業	読書週間を重点として読書活動を促進	①（全国）こどもの読書週間 4/23～5/12 ②（全国）読書週間 10/27～11/9 ③岩手の読書週間 2/1～2/14	週間中の行事数 ① 136 行事 ② 161 行事 ③ 144 行事	岩手県読書をすすめるつどい 令和5年2月4日(土) 11時00分～15時40分 アイーナ8階 会議室804 表彰（読書推進標語・手づくり絵本入賞者） 講演（宇部京子氏×中村一郎氏） 実技発表（花巻市たんぽぽの会） 活動発表（盛岡大学図書館研究会）
市町村立図書館等運営支援事業	・図書館等職員の知識及び技能の向上 ・運営状況や課題等の把握及び支援	①新任館長等研修 4/21～28（オンライン） ②初任職員研修 5/26～27（集合） ③中堅職員研修 7/15～29（オンライン+集合） ④図書館等職員専門研修 9/15（オンライン） 12/2（集合） ⑤図書館職員・図書館協議会委員合同研修会 10/19 いわて県民情報交流センター ⑥郷土資料講座 12/18 紫波町情報交流館 ⑦市町村立図書館等訪問 4月～10月	参加者数 ① 15名 ② 42名 ③ 44名 ④ 9/15 35名 12/2 28名 ⑤ 30名 ⑥ 56名 ⑦24館（沿岸部の被災館は全て）	各研修のアンケート結果における満足度（満足+やや満足） ① 90.0% ② 84.6% ③ 78.1% ④ 9/15 96.4% 12/2 100.0% ⑤ 96.3% ⑦市町村立図書館等が当館に資料等を発送する際の経費の一部について、当館が負担する事業の復活を求める要望への対応

令和5年度岩手県立図書館事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
図書館資料の収集、整理、保存及び活用	図書館資料の選定・収集	平成28年度に所蔵調査を実施の上、望ましい蔵書の構築に向けた収集方針及び選定基準を定め、これに基づいて図書館資料を収集	令和4年度から8年度までの5か年（2巡目）	重点収集分野 R5：5分類（技術） 参考 R4：参考図書
	郷土資料・震災関連資料の網羅的収集・活用	① 古文書等の解読、デジタルアーカイブ化の推進 ② 震災関連資料の充実と活用（4階新スペースの整備、セット貸出の促進） ③ 郷土資料講座の開催	① 通年 ② 通年 ③ 年1回	③ 希望する市町村
学習機会の提供と読書活動の奨励	図書館資料を活用した企画展示	① 所蔵資料を紹介する企画展や講座等の開催 ② 博物館や美術館等との連携	通年	
	読書週間関連事業の実施	① 県内図書館等における読書推進関連イベントの開催 ② 読書推進標語・手づくり絵本の募集・表彰 ③ 「読書をすすめるつどい」の開催	① 読書週間中 ② 6月～2月 ③ 2月	① 全県 ② 小中学生、一般（高校生を含む）、親子 ③ 一般、図書館関係者
	読書活動、調べ学習、就労体験実習等学校教育支援	① 見学、体験学習、インターンシップ等の受入れ ② 出前講座の開催 ③ 4階新スペースの整備による復興教育の支援開始 ④ セット貸出の促進	① 通年 ② 通年 ③ 9月頃 ④ 通年	
市町村支援及び連携	市町村立図書館等の支援	① 訪問による運営状況の把握・助言・支援 ② 相互貸借、団体貸出、協力レファレンス等	① 4月～10月 ② 通年	① 半数程度（沿岸部被災館は全て）
	市町村立図書館等職員の資質向上	① 各種研修の実施 ② 共通課題に関する調査研究の共同実施	① 4月～10月 ② 9月～3月	② 地区代表館
図書館機能の充実	指定管理業務の確認・支援・連携	① モニタリング ② 運営課題等定期打合せ ③ プロジェクトチームによる特定課題の検討	① 年4回 ② 週1回 ③ 適宜	③ 電子図書館への対応
	本庁各部局との連携による行政支援	「いわて県民計画（2019～2028）」10の政策分野及び県政150周年への対応（4階新スペースにおけるテーマ展）	通年	
	図書館協議会との連携	「岩手県公立図書館等振興指針」（平成17年1月）改訂の方向性検討と答申	通年 （協議会：6月、2月）	
	職員の育成	新任職員を中心とした館内研修の実施、館外研修派遣	通年	

資料 6

令和 4 年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 岩手県立博物館

説明者 職名 副館長 氏名 工藤 善彦

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
(1) 調査研究活動と効果的な資料収集活動の推進	関係機関と連携し、積極的に調査・研究活動や資料収集を行い、その成果をホームページ等で公開し、県民共有の知的財産を次世代に引き継ぐ取組を推進した。 収蔵スペースの不足や施設・設備の老朽化により、資料の適切な保管環境を維持することが困難となってきている。
(2) 県民ニーズを踏まえた常設展示や魅力ある展覧会の開催	季節や年中行事にあわせて定期的に展示替えやトピック展を開催した。 各部門の研究成果を多種多様な県民のニーズに対応した展示活動に反映させていくことが課題である。
(3) 学校教育と博物館との連携強化など教育普及活動の充実	「県博出前講座」の実施や教材用資料の貸出を行い、小中高等学校への学習支援を推進した。 利用を促進するために、学習ニーズを踏まえ事業内容の検討と効果的な情報発信の工夫が課題である。
(4) 文化財の救出及び保存・管理体制の構築	陸前高田市で被災した博物館資料の修復・安定化処理に取り組んだ。未だ多くの被災資料があることから、全ての修復等が終えるまで支援を継続する必要がある。

2 重点事業の状況

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況等	成果・課題
企画展及びテーマ展等の開催	①テーマ展「金田一家収蔵資料展」 ②企画展「赤色に宿るチカラ」 ③テーマ展「水辺の生きもの」 ④テーマ展「新収蔵・新指定展Ⅰ文化史編」 ⑤テーマ展「新収蔵・新指定展Ⅱ自然史編」	3/5～5/8 (56日間) 6/11～8/21 (65日間) 9/23～12/4 (63日間) 1/7～2/26 (44日間) 3/25～5/7 (38日間)	5,742人 9,609人 7,059人 -人 -人	多くの県民等に観覧していただき、満足度も高く充実した内容の展覧会が開催できた。 今後も県民ニーズを踏まえ、魅力ある展覧会の開催を目指したい。
被災文化財の再生事業	陸前高田市博物館の被災文化財資料の修復・安定化処理	通年	修復・安定化処理等 約30,000点	約46万点のうち約30万点の修復が完了している。
秋の学び教室（博物館まつり代替事業）	子どもたちを中心に、各部門による体験型教室を実施	10/8～10	109人	引き続き、コロナ感染拡大防止策を踏まえた開催方法を検討していきたい。

令和5年度 岩手県立博物館 事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
展示	常設展示	展示替えの促進	通年	一般
	特別展	化石に関する展示（地質部門）	調整中	児童～一般
	テーマ展	①「五大ダム探検大作戦」（民俗部門） ②「早池峰山」（生物部門） ③「わたしの県のラグビー」（歴史部門）	6/10～8/20 9/23～12/3 3/23～5/19	一般 〃 〃
教育普及	講演会 観察会 講習会	(1) 講演会 文化講演会 (2) 観察会 ア 地質観察会（①・②） イ 自然観察会（①・②） ウ 県立博物館バックヤードツアー (3) 講座 ア 県博日曜講座 イ 博物館で学ぶ岩手の歴史講座 ウ 考古学セミナー ①講演会 ②現地見学会 (4) 県博出前講座 (5) 学校教育との連携事業 ア 教材用資料貸出 イ ミュージアムシアター ウ チャレンジ！はくぶつかん (6) 体験教室 ア たいけん教室 イ 冬のワクワク！ワークショップ (7) 学芸員資格取得希望者に対する博物館実習指導	11/3 ①7月 ②10月 ①5月 ②11月 5月 4～3月（23回） 9～11月（6回） ①7月 ②10月 通年 通年 4～3月（10回） 4～3月（53回） 4～3月（48回） 冬休み期間中 8月 ※実施回数は予定	一般 一般 〃 〃 一般 高校～一般 一般 〃 〃 学校 児童～一般 児童生徒 児童生徒 〃 大学生
情報発進	出版・広報	(1) 年報（ホームページ掲載） (2) 博物館だより（年4回発行） (3) 行事案内リーフレット（年2回発行） (4) いわはく子ども新聞（年3回発行） (5) イベントガイド (6) SNS等の各種広報活動、ホームページの運営	6月 6、9、12、3月 8月、3月 7、12、3月 毎月1回 通年	一般 〃 〃 小学生 一般 〃
被災文化財再生	被災文化財の再生事業	震災で被災した文化財の修復作業及び安定化処理の実施	通年	陸前高田市立博物館
自主事業	博物館まつり	子どもたちを中心に広く一般の方々に博物館をより身近に感じてもらう、リピータ化を促進するため、様々な体験型教室やイベントを開催する	10月	児童～一般
	ナイトミュージアム	子どもたちに普段見ることができない夜の博物館の魅力を知ってもらう	8月	〃
	ミュージアムコンサート	親子で気軽に音楽に親しむ機会を提供し、博物館活動を盛り上げる	未定	〃

資料 7

令和4年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 岩手県立美術館

説明者 企画参事兼副館長 小笠原 誠

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
1 県民の共通財産としての将来への継承	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵美術品によるコレクション展や他館等との連携による企画展を開催し、県民に優れた美術品の鑑賞機会を提供したほか、展示関連の各種講座や体験教室等を通じて、芸術文化への理解と関心を高めることに寄与している。 ・観覧者数は、コロナ禍前の水準に回復してきているが、引き続き注視していく必要がある。今後も展示方法や内容の充実、報道機関との連携強化を図っていく必要がある。
2 調査・研究活動等の推進による本県評価の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・美術作品の収集選定や企画展等の開催に当たり、作家及び作品の調査等を精力的に行うとともに、関係機関等との連携を通じて、芸術文化振興の拠点となるべく幅広い学芸知識・技術の蓄積が進んでいる。 ・郷土出身作家等に関わる美術史や教育普及事業についての研究のほか、収蔵作品等の修復保存活動にも力を入れ、県民財産の価値向上に努める必要がある。
3 県民が等しく鑑賞・参加・創造できる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・県民が当館の情報に効果的・容易にアクセスできるよう、各種媒体を活用した多面的な広報活動を展開し、美術館活動のきめ細かな周知に努めている。 ・リピーターの確保や新たな来館者の開拓に向けて、SNS や YouTube、著名人による講演会など情報発信の幅を広げるとともに、媒体の効果的な活用方法も検討していく必要がある。

2 重点事業の状況（2～3）

※参加状況は令和4年12月末現在の実績値

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
展示事業	<ul style="list-style-type: none"> ○県ゆかりの作家等収蔵コレクション展示 ○多彩なテーマによる企画展 1 東北へのまなざし 1930-45 2 Human and Animal 3 江口寿史イラストレーション展 彼女 4 コレクター福富太郎の眼 5 IMA をうつす7人 6 アートフェスタいわて2022 	<ul style="list-style-type: none"> 第1～4期 4/ 9 - 5/15 5/28 - 7/ 3 7/16 - 9/ 4 9/17 -11/ 6 11/26 - 2/12 2/25 - 3/19 	<ul style="list-style-type: none"> 5,974人 4,147人 6,238人 20,982人 8,532人 開催中 開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品展示のほか、企画展の開催を通じて、優れた美術鑑賞の機会を提供している。 ・広く訴求力のある企画と県立美術館ならではの県人作家等の自主企画展をバランスよく組み立てていく必要がある。
教育普及活動事業	<ul style="list-style-type: none"> 1 ギャラリートーク、企画展関連講座 2 コレクショントーク、関連講座 3 スタジオプログラム（オープンスタジオ等） 4 教育プログラム（学生サポートスタッフ育成） 5 美術プログラム（館長講座、学芸員講座等） 6 映像プログラム（アートシネマ上映会） 7 アウトリーチ（出前授業、ワークショップ等） 8 来館者対応（一般団体・学校団体等） 	<ul style="list-style-type: none"> 26回 20回 17回 随時 5回 9回 13回 36団体 	<ul style="list-style-type: none"> 2,429人 224人 624人 77人 198人 403人 494人 1,072人 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、定員を半分程度に絞って実施しているが、参加者の満足度は高い。 ・出前授業は対象校あてへの広報により希望校が増加。今後はタブレットの活用などを検討していく。
自主事業	<ul style="list-style-type: none"> 1 ミュージアムコンサート 2 ナイトミュージアムコンサート 3 ファミリータイム 4 アートイベント（講演会、ワークショップ等） 	<ul style="list-style-type: none"> 一回 一回 18回 1回 	<ul style="list-style-type: none"> （中止） （中止） 66人 242人 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中止せざるを得ない事業があったが、他館の状況等も参考に新規来館者に繋がる展開を考えていく必要がある。

令和5年度（ 岩手県立美術館 ）事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
展示	展示事業 (コレクション展)	美術館収蔵コレクションのテーマ展示	年4期	一般
	展示事業(企画展)	1 みちのく いとしい仏たち 2 面構 片岡球子展 たちむかう絵画 3 フィンランドのライフスタイル 4 高畑勲展 5 自主企画展(不安の時代を生きる(仮)) 6 アートフェスタいわて2023	4/ 8 - 5/21 6/ 3 - 7/17 7/29 - 9/10 9/30 -12/17 1/ 6 - 2/18 3/ 2 - 3/24	一般 一般 一般 一般 一般 一般
教育普及	教育普及活動事業	1 企画展関連 (1)ギャラリートーク (2)関連講座 2 コレクション展関連 (1)コレクショントーク (2)関連講座 3 美術普及 (1)スタジオプログラム 1) オープンスタジオ 2) アートデオヤコ (2)教育プログラム 1) 学生サポートスタッフ受入れ・育成 (3)美術プログラム 1) 館長講座 2) 学芸員講座 (4)映像プログラム 1) アートシネマ上映会 2) アートスペース、デジタルビジョン等 4 アウトリーチ (1)美術館出前授業 (2)美術関連研修講師派遣 5 来館者対応 (1)美術館探検(てくてくツアー) (2)一般団体対応 (3)学校団体対応(小中高大・支援学校)	月2回程度 年10回程度 月2回 年3回程度 年2回 月2回 随時 年4回程度 年2回程度 年12回程度 通年・随時 随時 随時 年6回 随時 随時	一般 一般 一般 一般 一般 未就学児・保護者 大学・専門学校生 一般 一般 一般 一般 児童、生徒 一般 一般 一般 児童・学生
その他	広報事業	1 印刷媒体・ウェブ媒体による情報発信 2 地域連携による情報発信 3 収蔵品基本データ整備	通年 通年 通年	
	美術品保存修復事業	1 美術作品収集 2 美術作品保存修復 3 虫菌害環境調査	随時 随時 随時	
	自主事業	1 ミュージウムコンサート 2 ファミリータイム 3 アートイベント(講演会、ワークショップ等)	年2回程度 月2回程度 年1回程度	一般 幼児等・保護者 一般

資料 8

令和4年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 岩手県立県南青少年の家

説明者 生涯学習文化財課総括課長 久慈 孝

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
1 主催事業・研修活動の充実	(1)成果 青少年の学習活動支援では、「野外活動指導者セミナー」で地域指導者の育成を、「県南はひとふる♡Day」では障がい者の生涯を通じた学習活動の推進を行うことができた。 (2)課題 昨年度開始したプログラム「森の探検ごっこ」の普及に伴い幼児のネイチャーゲーム関連の依頼が増えている。プログラム化と指導員の研修を急ぎたい。
2 利用の促進	(1)成果 グラウンドゴルフ場を新設して地域の協会・団体と連携した結果、年間を通じて高齢者の方々に利用していただくことができた。また、新プログラム「森の探検ごっこ」で幼児の利用者数を増やすことができた。 (2)課題 新型コロナの影響で落ち込んでいる大学生や社会人の利用促進を行っていききたい。
3 環境の整備・充実（安全の確保）	(1)成果 長年蓄積されていた全館の床の黒ずみを取り除き、明るい雰囲気を利用者を迎え入れることができるようになった。 (2)課題 補修は進めているが、施設内では老朽化している部分が散見されるので引き続き安全点検を確実に実施したい。

2 重点事業の状況（2～3）

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況等	成果○・課題●
水と緑のフレンドシップ	異年齢で構成される集団の中で野外活動を通して主体的に活動し、たくましく生きようとする心を育成する。 <内容> ・千貫石森林公園での自然体験（森林学習） ・国立花山青少年自然の家との連携（登山、沢登り） ・野外炊事 ・キャンプファイヤー	7月31日（日）～8月4日（木）	19名	○県南広域振興局林務部と連携して千貫石森林公園で森林学習を行い、岩手の自然に対する学びを深めることができた。 ○意図的な異年齢集団の構成により、各グループで中学生リーダーを中心に自主的・主体的な活動を行うことができた。 ●酷暑の中の実施であったため、用意した水分が不足気味であった。
かるがも親子体験教室【親子de宿泊体験編】	親子で共同体験や交流活動を通じて、親子間の理解と関係を深める。また、親子同士の交流を通して子育てをする仲間づくりを促進する。 <内容> ・宿泊体験・創作活動・NPO法人ホシミネスカとの連携（親子星空観察会）・岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課との連携（親子エクササイズ）	10月29日（土）～30日（日）	13家族 39名	○星空観察と親子エクササイズを専門の講師を招いて実施し、参加者に専門的な知識を得てもらうことができた。 ○時間に余裕を持たせた構成のため、親子間の交流の時間を十分に確保することができた。 ●複数の外部講師の時は特に事前の打ち合わせを綿密に行う。
県南はひとふる♡Day【スクラム編】	日常の学習と異なる活動の提供を通して、体験の機会を拡大させるとともに参加者相互の交流を図る。 <内容> ・県立美術館との連携（創作活動体験）	12月3日（土）	9名	○初めての特別支援学級在籍児童対象の事業を行い、親子で体験活動を通して交流を深めることができた。 ●次年度以降も事前の参加児童の実態把握を細やかに行っていきたい。

令和5年度 県南青少年の家 事業計画概要

No.	領域	事業名	実施内容	期日	対象・定員
1	主催	「野外活動指導者セミナー」	施設利用オリエンテーション、講義、野外活動、利用調整等	①4月26日(水) ②5月2日(火)	利用団体関係者、各市町社会教育担当者等 定員なし
2	主催	「アドバイザースタッフ養成講座」	野外活動、ニュースポーツ、救命救急講習、仲間づくりゲーム、事業紹介等	5月27日(土)～28日(日)	高校、専門学校生、大学生等 15名
3	主催	「自然ワンダークラブ」	春「仲間との出会い」ウォークラリー、野外炊事等	5月27日(土)～28日(日)	各回、小学校4年生以上～6年生まで30名 (第1回目で年間登録制)
			夏「夏の自然との出会い」川遊び、創作活動等	8月19日(土)～20日(日)	
			秋「秋の自然との出会い」登山、創作活動等	9月30日(土)～10月1日(日)	
			冬「冬の自然との出会い・仲間との別れ」雪遊び等	1月13日(土)～14日(日)	
4	主催	「水と緑のフレンドシップ」	キャンプ、野外炊事、沢登り、創作活動、登山等	7月30日(日)～8月3日(木)	小学校5年生以上～中学生まで 20名
5	主催	「かるがも親子体験教室」	「親子de宿泊体験編」 宿泊棟泊、野外活動等	10月28日(土)～29日(日)	小・中学生の子どもをもつ家族 20家族 (40名程度)
6	主催	「通学合宿」	ノーメディア、お楽しみ夜の活動、創作活動、自主学習活動等	11月5日(日)～8日(水)	永岡・西・第一小学校5、6年生 30名
7	主催	「県南 は～とふるDay」	「チャレンジ編」 創作活動、ニュースポーツ等	通年	適応指導教室 定員なし ※出前講座として実施
			「スクラム編」 親子創作活動	12月2日(土)	特別支援学級在籍児童と保護者 10家族 (20名程度)
8	自主	「ファミリートレッキング」	親子トレッキング	6月10日(土)	小学生とその家族 10家族 20名程度
9	自主	「かるがも親子体験教室」	「親子deアウトドア編」 野外炊事、川遊び等	7月15日(土)	小・中学生の子どもをもつ家族 20家族 (40名程度)
10	自主	「みどりのキャンパスふれあいフェスティバル」	ホットサンドづくり体験、創作活動、ニュースポーツ、川遊び等	8月27日(日)	子ども～一般まで 定員なし
11	自主	県南青少年の家所長杯「サッカーフェスティバル」	第32回サッカーフェスティバル	9月16日(土)～17日(日)	サッカースポーツ少年団 12チーム
			第33回サッカーフェスティバル	9月23日(土)～24日(日)	
12	自主	「親子de手作りクリスマス」	「親子でクリスマスキャンドル創作」①	11月25日(土) 午前	各回、小学生の子どもを持つ家族 15家族 (30名程度)
			「親子でクリスマスキャンドル創作」②	11月25日(土) 午後	
			「親子でクリスマスキャンドル創作」③	11月26日(日) 午前	
			「親子でクリスマスキャンドル創作」④	11月26日(日) 午後	
13	自主	「かるがも親子のクリスマス」	創作活動、交流会、星空観察会 子育てに関する保護者学習会等	12月9日(土)～10日(日)	小学校1～3年生の子どもをもつ家族 25家族 (50名程度)
14	自主	「冬のおもしろ体験ランド」	冬にまつわる体験活動(雪遊び)創作活動、スキー等	1月27日(土)～28日(日)	小学校4年生以上～中学生まで 20名
15	自主	「大人ワンダークラブ」	春山トレッキング編	5月13日(土)	成人 20名
			登山編(栗駒山)	10月15日(土)	
			創作活動編	2月11日(日)	

※「領域」の「主催」は、主催事業。「自主」は、自主事業のこと。

令和4年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 岩手県立陸中海岸青少年の家
 説明者 生涯学習文化財課 総括課長 久慈 孝

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
1 主催事業・研修活動の充実	(1)成果 ・山田町教育委員会生涯学習課や水産商工課、山田町立「鯨と海の科学館」の協力の下、充実した海洋体験活動を提供することができた。特に、事業「海の子野外教室」では、山田湾大島(通称オランダ島)でのデイキャンプを実施し好評を得ることができた。 (2)課題 ・好評を得ている事業について、申込み者が定員を上回った場合、どこまで増やして受け入れるか、その見極めに時間を要した。予め定員を増やして募集するか、また定員を超えた場合は抽選なのか先着順なのか、公平公正を第一義として方針を決めておかなければならない。 ・地域人材や関係団体との連携をより強めるため、「コロナ禍」で弱まったネットワークやノウハウを修復し、取り戻すこと。
2 利用促進	(1)成果 ・使用許可申請書類等様式のデジタル化、事業参加申込み方法のデジタル化により、利用者の申請に係る時間的・心理的負担が軽減された。受入調整や事業運営での業務改善にもつながっている。 ・主催事業に於いて、付加価値のある体験提供を積極的に展開したことにより、定員を上回る申込みを得られた。(自衛隊施設内の一等三角点を含む「十二神山トレッキング」。灯台内見学を含む「鮎ヶ崎トレッキング」。ホタテ殻むき体験を含む「親子deエンジョイ1day夜釣り」。当施設初の人工芝での競技「グラウンド・ゴルフオープン交流大会」等) (2)課題 ・地域の人口減、コロナ禍にあつて、いかに利用を促していくか。新規利用者の開拓には「顔の見える営業活動」も必要だ。そのために、どのように展開していくかが課題。
3 環境の整備・充実 (安全の確保)	(1)成果 ・施設・設備に関して、日常自主点検の徹底とともに、体育施設管理士による点検・指導によるダブルチェックの体制を充実させた。 (2)課題 ・施設・設備の老朽化に伴い、点検だけでなく計画的な修繕が一層必要である。

2 重点事業の状況（2～3）

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況	成果・課題
マリンランド陸中自然体験塾 ①海の子野外教室	・自然体験活動を通して、思いやり の心や自然を大切にすることを育 み、参加者相互の交流を図る。 ・オランダ島デイキャンプ、海洋ス ポーツ等	7月29日(金)～ 8月2日(火)	参加者 33名	○泊数を4泊に増やし、活動内容と体験の質を向上させた。従 来より豊富な体験や交流ができ、好評を得ることができた。 ○アドバイザースタッフは事前の研修の成果を発揮し、有機的に 事業に参画することができた。 ●天候や参加者の体調に応じて、より柔軟に対応できる事業内 容とする。
親子deエンジョイ 1day夜釣り	・夜釣り体験を通して、親子のふれ 合いを深める。 ・仕掛け作り ・堀坊での夜釣り	10月22日(土)	参加者 42名	○釣りに関する知識や技能が高い職員が多く、丁寧な指導がで きた。そのことにより満足度を高めることができた。 ●好評を得ている事業でもあるので、事業回数を増やし、参加 者のニーズに応えられるようにしたい。
創作ひろば①②	・季節の行事に伴う飾り作りを通し て、文化に触れながらものづくり を楽しむ。 ①クリスマス飾り作り ②正月飾り作り	①12月4日(日) ②12月11日(日)	参加者 72名	○幅広い等の貴重な体験を通して家族や友人との交流を深める 機会となった。 ●ウイズコロナの社会に対応した事業計画や展開方法をより確 実とする。

令和5年度 陸中海岸青少年の家 事業計画概要

No.	領域	事業名	実施内容	期日	対象・定員
1	主催	自然体験活動セミナー	火おこし体験・野外炊事・ウォークラリー 沢登りコース見学・いっかだ組立等	4月28日(金)	当施設利用団体 担当教員
2	主催	海釣り道場	A:日帰り船釣り B:1泊2日船釣り C:日帰り堤防釣り D:1泊2日堤防釣り	①5月3日(水)～4日(木) ②7月15日(土)～16日(日)	小学生～一般 60名程度
3	主催	マリンランド陸中杯 グラウンド・ゴルフ交流会	グラウンド・ゴルフ交流会	①5月17日(水) ②9月1日(金) ③9月27日(水)	概ね50歳以上の方 各回100名程度
4	主催	アドバイザースタッフ セミナー	海洋スポーツ、海の安全等の研修	7月8日(土)	高校・大学生・一般 10名程度
5	主催	マリンランド陸中自然体験塾① 海の子野外教室	海洋スポーツ・テント設営・沢登り等	7月27日(木)～7月30日(日)	小学5・6年生 30名程度
6	主催	マリンランド陸中自然体験塾② 雪ん子野外教室	スキー、雪遊び等	1月6日(土)～8日(月)	小学5・6年生 20名程度
7	主催	季節の味わい	季節の食体験(調理・試食)	2月3日(土)	小学生～一般 30組程度
8	主催	ハートフルキャラバン	創作、ニュースポーツ活動等	通年	不登校及びひきこもり傾向 にある児童・生徒 定員なし(保護者同伴可)
9	主催	やまびこキャラバン	創作、ニュースポーツ活動等	通年	子ども～大人 概ね10名以上
10	自主	ワンダフルネイチャー① 鯨山登山	鯨山登山	4月22日(土) 予備23日(日)	小学生～一般 40名程度
11	自主	エンジョイ夜釣り	堤防での夜釣り体験等	①7月26日(土) ②10月14日(土)	小学生～一般 40名程度
12	自主	マリンランド陸中フェスタ 「感謝まつり」	創作・ニュースポーツ体験等	9月23日(土)	定員なし
13	自主	ワンダフルネイチャー② 兜明神登山	兜明神登山	10月28日(土) 予備29日(日)	小学生～一般 40名程度
14	自主	ワンダフルネイチャー③ 鮎ヶ埼トレッキング	鮎ヶ埼トレッキング	11月18日(土) 予備19日(日)	小学生～一般 40名程度
15	自主	創作ひろば	クリスマス飾り又は正月飾り等	12月9日(土)	幼児～一般 60名程度
16	自主	第45回陸中海岸 剣道スポーツ少年団交歓会	剣道交流試合	1月27日(土)～28日(日)	沿岸地区の剣道スポーツ少年団
17	自主	第20回マリンランド陸中 フットサル交流会	フットサル交流試合	2月17日(土)～18日(日)	沿岸地区サッカースポーツ少年団
18	自主	第16回マリンランド陸中 ミニバスケットボール交流会	ミニバスケットボール交流試合	2月24日(土)～25日(日)	山田町および近隣市町村 のミニバススポーツ少年団

※「領域」:「主催」は主催事業。「自主」は自主事業。

令和4年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 岩手県立県北青少年の家

説明者 生涯学習文化財課 総括課長 久慈 孝

1 総合的な成果と課題

項目	成果と課題
1 主催事業・研修活動の充実	<p>(1)成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年人気の事業「サマーチャレンジキャンプ」を昨年度の3泊4日から4泊5日へ変更し、新たなプログラムを追加することで参加者の満足度を高めることができた。 ・一戸観光天文台台長の協力や環境学習交流センターからの講師派遣により、より専門的なプログラムで、事業参加者たちの興味関心を喚起することができた。 <p>(2)課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染防止策としての制限は、昨年度よりは緩和されたものの、利用者のニーズに応えられない現状や制限を設けなければならない現状も未だ残っている。
2 利用の促進	<p>(1)成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録することで、事業案内が届く情報発信システム「ステラ便」を新たに設置。事業参加者や利用団体を対象に入会の案内を配付し、登録者数70名を超えている。 ・(株) マイクロ岩手との連携において、地域情報発信サイトで事業宣伝を図ることができた。 <p>(2)課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配付方法を変更したこともあるためか、例年より応募に減少傾向が見られた。利用団体者に事業チラシを配付することで定員はほぼ確保できたが、今後チラシ配付の方法を工夫・改善していく必要がある。
3 環境の整備・充実 (安全の確保)	<p>(1)成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、職員による定期点検（月1回）と日常点検（研修班員や警備員等の巡回）を徹底することで、利用者の安全・安心に努めることができた。 ・新型コロナウイルス感染防止への対応版として、マニュアルを現状に合った内容に適宜変更し、利用者に周知していただくことができた。 <p>(2)課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化に伴い、設備の不具合が出てきている。今後の程度によっては早急に対応できないことを懸念している。

2 重点事業の状況（2～3）

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況等	成果・課題
県北ステラクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・別室登校・適応指導教室に通う児童生徒対象の体験活動をサポートする出前講座。 ①木工メモスタンド作り ②クリスマスリース作り 	<p>通年</p> <p>① 9月27日(火)</p> <p>② 12月15日(木)</p>	<p>あすなる塾</p> <p>①4名</p> <p>②6名</p>	<p>○新規事業を開催、運営することができた。</p> <p>●登録者が少なく、ニュースポーツの実施は難しい。プログラムに工夫が必要である。</p>
親子でチャレンジI	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊を伴う野外活動を通して、家族のふれあい、参加者相互の親睦を深めると共に、野外活動に親しむきっかけとする。 ・野外炊事、自然体験活動等 	<p>5月28日(土)</p> <p>※当初宿泊での計画であったが、ハードルが高いと指導され、日帰り事業に変更した。</p>	<p>親子2組4名</p>	<p>○特別支援学校に通う児童生徒に自然体験や野外活動に触れる機会を提供できた。</p> <p>●障害の程度があるため、親との連携と事前準備をしっかりとる必要がある。</p>
サマーチャレンジキャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で構成された集団が、野外活動を通して、自主性、忍耐力、協調性を育むと共に、たくましく生きようとする心の育成を図る。 ・館内泊、自然体験活動等 	<p>8月2日(火)～6日(土)</p>	<p>28名</p> <p>小学生25名</p> <p>中学生3名</p>	<p>○県北から移動し、県内各地を巡ってプログラムを実施することで、よりダイナミックな活動ができた。</p> <p>●B&Gを毎年利用しているので、使用するだけではなく浜辺の清掃活動等も取り入れていきたい。</p>

令和5年度 県北青少年の家 事業計画概要

No.	領域	事業名	実施内容	期日	対象・定員
1	主催	県北ステラクラブ	創作体験、ニュースポーツ体験、 野外炊事体験等、相談に合わせて (出前講座も含む)	通年 【4月1日(土)～ 令和6年2月末日】	学校不適応児童生徒 特別支援学校児童生徒 定員なし
2	主催	野外活動セミナー	施設利用説明、野外炊事体験、野外活動 説明・体験、日程調整会議、プログラム相 談等	5月 9日(火)	利用予定団体の担当者等 定員なし
3	主催	わんぱく広場①②	魚のつかみ取り、調理体験(魚の下処理 含む)、昼食等	①6月 10日(土) ②6月 11日(日)	子どもから大人まで 30名程度
4	主催	にこにこキャンプ①②	テント泊、自然体験活動、野外炊事等	① 7月 15日(土)～16日(日) ② 7月 22日(土)～23日(日)	小学校2・3年生 各回30名程度
5	主催	サマーチャレンジキャンプ	館内泊、自然体験活動、野外炊事、ニュ ースポーツ等	8月 5日(土)～ 9日(水)	小学校4年生～中学生 30名程度
6	主催	親子で アウトドア・クッキング!	野外炊事、昼食等	10月 1日(日)	小学生を含む家族 40名程度
7	主催	スケート場感謝デー	入場料・貸靴料無料、自由滑走、氷上ス ポーツ体験等	11月 3日(金) 文化の日	子どもから大人まで 入場制限あり
8	主催	だれでもスケート教室 ①②③	初心者・初級者対象のスケート教室等	①11月 12日(日) ②11月 26日(日) ③12月 10日(日)	子どもから大人まで 各回 30名程度
9	主催	ステラパル冬遊塾	館内泊、自然体験活動、ウインタースポー ツ体験、創作活動等	1月 10日(水)～ 12日(金)	小学校4～6年生 30名程度
10	主催	ウインタースクール	館内泊、調理実習、自然体験活動、ウイン タースポーツ体験等	2月 3日(土)～ 4日(日)	小学校1～3年生 30名程度
11	主催	スケートキッズ感謝デー 【同日開催事業あり】	中学生以下の入場料・貸靴料無料 スケート教室、自由滑走、 カーリング体験等	2月11日(日) 建国記念の日	大人から子どもまで 場内の入場制限あり
12	自主	いきいき グラウンド・ゴルフ大会 ①②	グラウンド・ゴルフ大会、昼食等	①5月16日(火)【予備日翌日】 ②9月19日(火)【予備日翌日】	近隣市町村愛好者 ①・②とも100名程度
13	自主	レッツ!トレッキング ①②	県北近隣のトレッキング等	①6月 6日(火) 八幡平 ②9月 28日(木) 階上岳	どなたでも 各回15名程度
14	自主	ステラパル夏まつり 【同日開催事業あり】	施設見学、創作活動、体験コーナー等	8月27日(日)	大人から子どもまで 定員なし
15	自主	プラネタリウム鑑賞デー ①② 【同日開催事業あり】	プラネタリウムによる季節ごとの星座鑑賞 と天文現象やトピック紹介等	①8月27日(日) ②2月11日(日) 建国記念の日	子どもから大人まで 午前・午後の2回上映、 各回定員30名程度
16	自主	親子でチャレンジ	館内泊、野外炊事、創作活動 ニュースポーツ体験等	10月 7日(土)～ 8日(日)	小学生を含む家族 30名程度
17	自主	ステラパル冬まつり 【同日開催事業あり】	施設見学、創作活動、体験コーナー等	2月 11日(日) 建国記念の日	大人から子どもまで 定員なし

※「領域」の「主催」は主催事業、「自主」は自主事業のこと

資料 9

令和4年度主要施策の実施状況（概要）

公所名 岩手県立野外活動センター

説明者 職名 所長 氏名 小岩 孝 朗

1 総括的な成果と課題

項目	成果と課題
(1) 施設利用の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○沿岸南部教育事務所との連携のもと、管内の小中学校を対象とした施設利用の方法や活動プログラムの内容等に係る周知の機会を設けることができた。（6月） ○近隣市町立学校への個別訪問を行うことができた。（11月） ○利用者アンケートの継続的な分析に努め、要望等に係る対応の進捗状況等についても職員間で共有することができた。 ○多様な媒体を活用しながら、適時的な情報提供・情報更新に努めている。
(2) 施設環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ○清掃や警備、食堂、草刈業務等に係る委託業者との連携を随時図りながら、利用者の利便性向上及び安全の確保等に向けた取り組みに継続してあたることができた。 ●被災前の施設に比べ、備品等の収納スペースが著しく減少していることから、本来屋内に収納すべき物品等をやむを得ず軒下等に置かざるを得ない状況にある。今後、塩害等による影響も危惧されることから、迅速な対応を進めていきたい。
(3) 主催事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○各事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症への対応も留意しながら概ね円滑に進めることができています。 ○東日本大震災津波伝承館や陸前高田市体育協会、釜石海上保安部等、多様な機関・団体等との連携を進めることができた。
(4) 研修プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○海洋性プログラムの充実に向けて「SUP (Stand Up Paddleboard)」の体験会を2回実施することができた。

2 重点事業の状況（2～3）

事業名	趣旨・内容	期日・期間	参加状況等	成果・課題
野活キッズクラブ	野外炊事や農園づくり、磯遊び、スキー体験等、季節に応じた体験活動を通して、自然に対する興味関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ① 6/4(土)～5(日) ② 7/23(土)～24(日) ③ 11/12(土)～13(日) ④ 2/4(土)～5(日) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 29名 ② 30名 ③ 28名 ④ 今後実施 ※小学4年～中学1年 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通した同一メンバーによる直接体験活動を実施することにより、より良い人間関係の構築に資することができている。
震災・防災学習現地研修会	復興教育担当教員等を対象とした震災・防災学習プログラムに係る現地研修会を実施することにより、学校教育と連携した震災伝承と防災文化の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ① 7/28(木) ② 7/29(金) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 14名 ② 13名 	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災津波伝承館との連携により、効果的な事業展開をすることができた。 ●防災に関する活動プログラムの充実を一層図っていくこと。

令和5年度（ 岩手県立野外活動センター ） 事業計画概要

事業計画概要

領域	事業名	実施内容	期日・期間	対象・人数
自然体験活動事業	野活キッズ	野外活動の普及奨励 ・野外炊事、テント泊、キャンプファイヤー等	①7/22(土)～23(日) ②1/27(土)～28(日)	小学3～6年 30名
	ドラマチック海遊塾	「海」をテーマとした体験 ・漁業体験、海水浴、テント泊、磯遊び等	8/3(木)～6(日)	小学5年～中学生 30名
家庭教育関連事業	ファミリーキャンプ in 広田	親子の共同体験 ・テント泊、野外炊事、磯遊び等	8/19(土)～20(日)	親子 30名
	親子海釣り教室	「海釣り」を通じた体験 ・防波堤釣り、船釣り等	①10/7(土) ②10/14(土)～15(日)	親子 30名
指導者養成事業	ボランティアスタッフ養成研修	施設ボランティアの養成 ・講義、体験活動支援等	7/22(土)～23(日)	高校生等 30名
	合同事前研修会	野外活動実施のための事前研修 ・活動調整、実習等	①5/10(水) ②5/11(木) ③7/11(火)	教員等 30名
復興防災教育事業	震災・防災学習現地研修会	復興防災教育の推進 ・東日本大震災津波伝承館見学、防災プログラム体験等	①7/27(木) ②7/28(金)	教員等 30名
	親子防災教室	防災に係る共同体験 ・非常時行動の模擬体験、炊き出し体験等	9/30(土)～10/1(日)	親子 30名
スポーツ推進事業	SUP体験会	海洋性プログラムの推進 ・プールでの体験、海での体験等	①6/10(土) ②7/15(土)	一般 20名
	スポーツ教室 in ハマラインパーク	各種スポーツ活動の振興 ・ソフトテニス、バレーボール等	①10/28(土) ②12/16(土)	小中学生 ①100名 ②50名

